

障害当事者のニーズを的確に捉えた
支援機器開発のための



障害者自立支援機器

「シーズ・ニーズマッチング交流会」

～作る人と使う人の交流会～

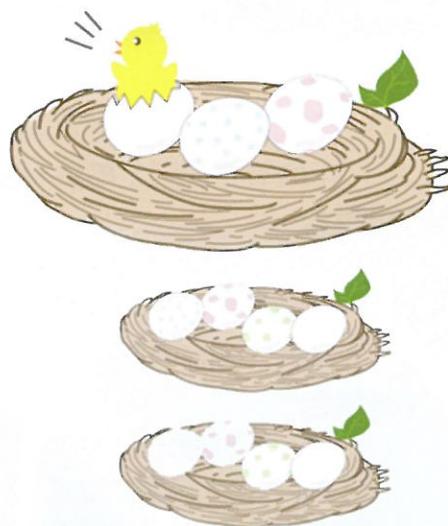
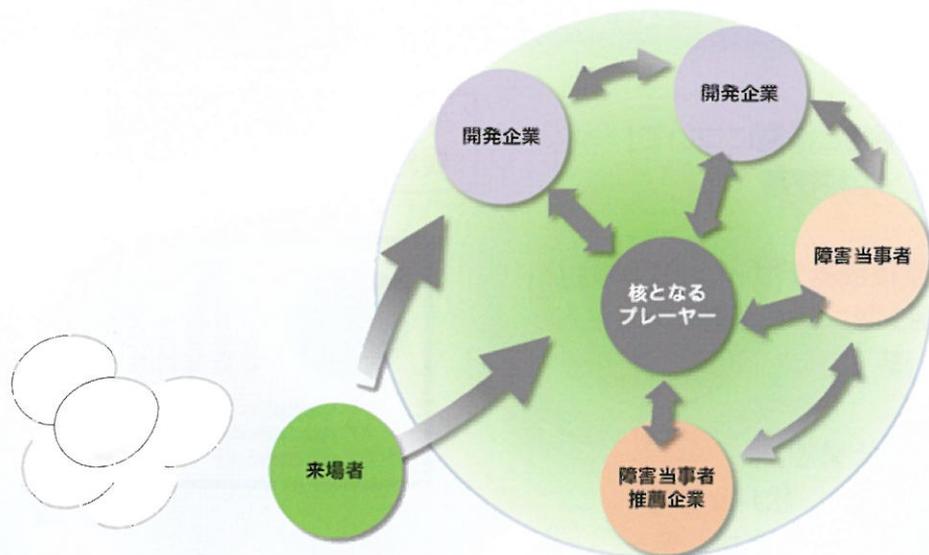
開催日 平成27年3月6日(金)～7日(土)
時間 10:00～16:00
会場 TOC有明コンベンションホール4階
主催 公益財団法人テクノエイド協会

入場無料

<参加対象>

障害当事者、家族、研究者、
専門職、障害団体、
全ての支援機器開発企業 等

障害当事者のニーズをよりの確に捉えた支援機器開発の機会を創出すべく、シーズ・ニーズのマッチング交流会を開催いたします。交流会では、開発や改良等を行う機器の展示を行うとともに、障害当事者と企業・研究者、政府系の研究開発支援機関等が一堂に会し、体験や交流を通じて、良質な支援機器の開発、この分野への新規参入の促進を図ります。



主な展示機器・・・会場で体験や意見交換ができる機器

- 肢体障害者の日常生活支援機器 (車いす、杖など)
 - 視覚障害者の日常生活支援機器 (色や明るさの識別機器など)
 - 聴覚障害者の日常生活支援機器 (コミュニケーション支援機器など)
 - 盲ろう者の日常生活支援機器 (会話や意志伝達の支援機器など)
 - 障害児の生活を豊かにする支援機器 (衣服、理解向上のための機器など)
- その他たくさんの支援機器を展示します。



※展示機器のイメージ(必ずしも写真の機器が出展されるわけではありません)

プログラム

<交流会>EASTホール 3月6日(金)~7日(土)

●障害者団体ブース

障害に関する課題や現状を多くの人に知っていただけるよう、それぞれの団体の活動を紹介

参加団体(予定)

日本身体障害者団体連合会/全国脊髄損傷者連合会/日本ALS協会/日本盲人会連合/ろう・難聴教育研究会/ろう教育を考える全国協議会/難聴児支援教材研究会/筑波技術大学/全国盲ろう者協会/全日本難聴者・中途失聴者団体連合会/ポリオの会/自閉症サポートセンター

●機器開発企業ブース

現在開発中や改良中の自立支援機器を紹介

●開発支援機関ブース

参加団体

NEDO(独立行政法人 新エネルギー・産業技術総合開発機構)
NICT(独立行政法人 情報通信研究機構)
JST(科学技術振興機構)
国立障害者リハビリテーションセンター研究所
厚生労働省自立支援振興室



●参加者

全ての支援機器開発企業、当事者、家族、研究者、専門職、障害団体等

<講演・シンポジウム>WESTホール 3月6日(金)

●基調講演

「自立支援機器開発に対する期待と役割について」
日本作業療法士協会 会長 中村春基

●基調報告

「3Dプリンタが拓く新たな支援機器デザインの可能性」
国立障害者リハビリテーションセンター研究所
硯川 潤/中村 隆/高嶋 淳

●現場報告

「自立支援機器を活用した活動と参加」
NPO法人自閉症サポートセンター 松井 宏昭
NPO法人チャレンジド・コミュニティ 金井 光一
NPO法人生活サポートみらい 石崎 洋子
NPO法人メッセージ花くじら 石田 眞

●シンポジウム

「開発・市販化に向けての苦労話と成功事例」
座長:国立障害者リハビリテーションセンター 諏訪 基

すべての講演・シンポジウムで
要約筆記での通訳を行います。



併設
イベント

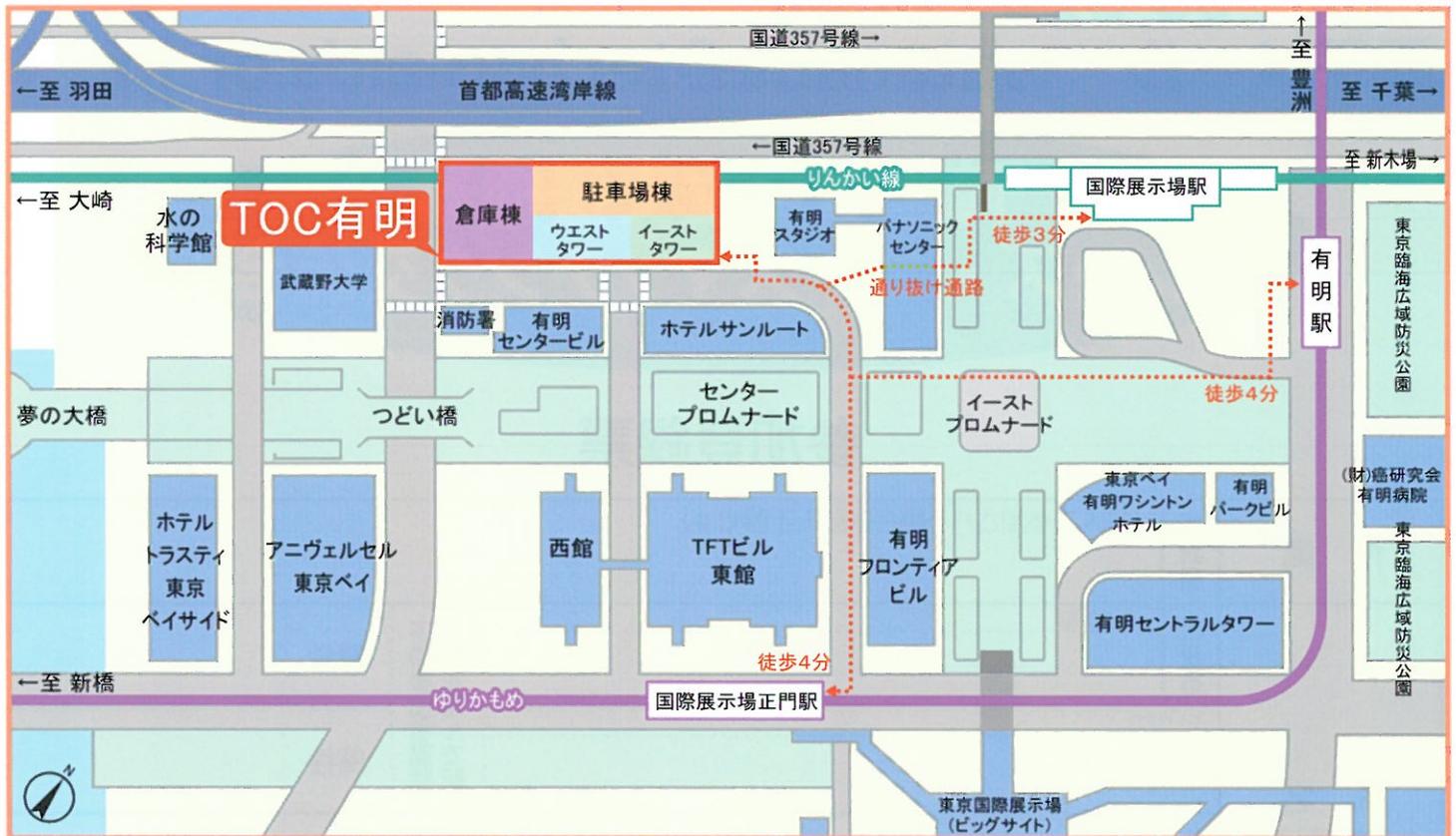
WESTホール 3月7日(土)

主催:国立障害者リハビリテーションセンター研究所

●ニーズ&アイデアフォーラム(NIF)

●支援機器利活用拡大シンポジウム—情報基盤構築で進めるイノベーション創出—

会場までのアクセス



..... 徒歩ルート りんかい線の初電車から終電車の間は、通行することができます。[※土日は7:00~22:00まで]

TOC有明

住所 〒135-0063東京都江東区有明3丁目5番7号

電話 03-5500-3535 URL <http://www.toc-ariake.jp/>

〈公共交通機関のご案内〉 2路線3駅の利用が可能です。



- りんかい線国際展示場駅から徒歩3分
- ゆりかもめ国際展示場正門駅・有明駅から徒歩4分

〈車でお越しの場合〉



- 首都高速湾岸線「有明」出口より約5分(新木場方面より)
- 首都高速湾岸線「臨海副都心」出口より約5分(大井方面より)
- 首都高速11号線「台場」出口より約5分(レインボーブリッジ方面より)

〈駐車場のご案内〉

業務棟1~5階と接続されている大規模自走式駐車場(有料)をご利用ください。

〈休憩スペース・身体障害者用トイレ〉

本交流会の会場となるコンベンションホール4階に設置しています。

ニーズ&アイデアフォーラム (NIF)

～医療福祉系、デザイン系、工学系の学生による障害者支援機器の考案～

本当に必要なものって??



医療福祉系、デザイン系、工学系の学生さんの混合チームが、福祉をテーマにユーザ側や医療福祉専門職等のアドバイスを得ながら考えたアイデアの発表と利用者のニーズの一端を多くの方々に知っていただき、本分野の情報共有の促進や人材育成、支援機器開発の促進を図ることを目的としています。

ゲスト



松本明彦 氏
(まつもと・あきひこ)



鈴木ひとみ 氏
(すずき・ひとみ)



渡邊慎一 氏
(わたなべ・しんいち)



南浩一 氏
(みなみ・こういち)

日時 2015年3月7日(土) 10:00～16:15

場所 TOC有明コンベンションホール(2F) W-1, 2ホール

東京都江東区有明3丁目5番7号

りんかい線国際展示場駅から徒歩3分、ゆりかもめ国際展示場正門駅・有明駅から徒歩4分)

主催 ニーズ&アイデアフォーラムプロジェクトチーム

本フォーラムは、平成26年度厚生労働科学研究委託費(障害者対策総合研究開発事業)「支援機器イノベーション創出のための情報基盤構築に関する研究」の一環で行います。

参加費無料

手話通訳(1日)、パソコン要約筆記(午後)を実施

問合せ先 NIF@rehab.go.jp、04-2995-3100(7280) 担当 小野 栄一

午後の部は、席に限りがあるため、席の準備の都合上、なるべく事前登録をお願いします。

詳細はこちら <http://www.rehab.go.jp/ri/event/NIF2015/top.html>

併催行事: 障害者自立支援機器 シーズ・ニーズマッチング交流会 (主催: テクノエイド協会)

シンポジウム 支援機器の利活用と新たな開発を促進する情報基盤構築 (主催: 国立障害者リハビリテーションセンター)

ゲストのプロフィール

松本 明彦 氏 (まつもと・あきひこ)

1977年 酒井医療株式会社 入社 以後営業現場経験 20年
1997年～本社勤務 マーケティング部、営業企画部、入浴装置事業推進部、
新規事業推進部など。
2013年 在宅事業部 部長
入浴装置事業推進部で企画商品の代表的な自立支援浴槽「パンジー i」、
新規事業推進部で以下の URL の「リハビリテーション強化型 高齢者住宅」
リハモード・ヴィラの企画、開設、運営を担当
<<http://reha-mode.com/>>
<http://www.sakaimed.co.jp/>

渡邊 慎一 氏 (わたなべ・しんいち)

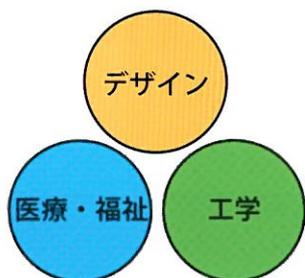
1983年 九州リハビリテーション大学校作業療法学科卒、門司鉄道病院勤務
1985年 米国ローマリンダ大学作業療法学科留学
1987年 横浜市総合リハビリテーションセンター
2002年 厚生労働省老健局振興課福祉用具・住宅改修指導官
2005年 横浜市総合リハビリテーションセンター
現在、横浜市総合リハビリテーションセンター医療部担当部長。
一般社団法人神奈川県作業療法士会会長。
一般社団法人日本作業療法士協会制度対策福祉用具対策委員長。
一般社団法人福祉用具専門相談員協会理事。
厚生労働省福祉用具・住宅改修評価検討会委員等、多数の職務を兼任。
福祉用具専門相談員研修用テキストを執筆に携わる他、著書も多数出版

鈴木ひとみ 氏 (すずき・ひとみ)

1981年 82年度ミス・インターナショナル準日本代表に選出
ミス・ネーション世界大会 ミス・エレガンスに選出
1983年 モデルデビュー
1984年 仕事の帰路、交通事故に遭った
1985年 鳥取で行われた身障者の国体に出場、2種目で大会新記録で優勝
1987年 国際ストークマンデビル競技大会(車椅子競技の世界大会)金メダル
2004年 アテネパラリンピック、射撃で出場
現在、UD啓発講師、NHK障害者福祉賞審査員、企業のバリアフリーの
アドバイスのかたわら執筆活動、射撃の選手(ピストル)
<http://www.h2.dion.ne.jp/~hitomi-s/>

南 浩一 氏 (みなみ・こういち)

1979年 ジャパンマスターズハングライダー大会 優勝
1980年 エンジンハングライダーの試験飛行中に墜落
首の骨を折り、四肢麻痺となり、以後車椅子の生活となる
1987年 福祉機器の会社を設立
1996年 埼玉県民栄誉賞を受賞
1997年 絵画(CG)が長野県総合福祉センター文化ホール緞帳のデザインに
採用される
パラリンピック5大会出場(ソウル、バルセロナ、アトランタ、シドニー、
アテネ)アーチェリー金メダリスト
現在、リハビリテーションエンジニアとして福祉機器の製造・販売に携わる。
車椅子の空撮カメラマン <http://blogs.yahoo.co.jp/minokori>



プロジェクトチーム 4つの学校の学生さんからなる8チームが成果物を展示・発表します

千葉大学	デザイン科学専攻	11名
社会医学技術学院	理学療法士学科 4年	12名
東京電機大学	未来科学部	3年 2名
埼玉大学	機械工学科	3年 8名
国立障害者リハビリテーションセンター	自立支援局、研究所	

プログラム

9:30 受付開始

10:00～12:45 ニーズ&アイデア プロジェクト 参加学生の成果展示(8ブース)

13:00～ 開会の挨拶 国立障害者リハビリテーションセンター 自立支援局長 飯島 節
ニーズ&アイデアプロジェクト 成果発表8件

13:45～ 当事者、専門職によるコメント

企業側 酒井医療(株) 在宅事業部 部長 松本 明彦氏

当事者側 UD啓発講師 鈴木ひとみ氏

医療専門職 横浜市総合リハビリテーションセンター、日本作業療法士協会 福祉用具対策委員長 渡邊 慎一氏

(休憩 20分程)

15:00～ 国立障害者リハビリテーションセンター・自立支援局の紹介

15:30～ 参加各校からのニーズ&アイデアプロジェクト総括

「パラリンピックに出場して(選手の目から見たニーズ&アイデア)」 南 浩一氏

「2020年東京オリンピック・パラリンピックと、その後に向けて私たちができること」 鈴木ひとみ氏

16:10 閉会の挨拶 国立障害者リハビリテーションセンター 小野 栄一

16:15 終了

プログラム

第1部

- 10:00-10:20 **開会** » 国立障害者リハビリテーションセンター 総長 中村 耕三
挨拶 » 厚生労働省 社会・援護局 障害保健福祉部
 » 経済産業省 商務情報政策局 ヘルスケア産業課 医療・福祉機器産業室
- 10:20-11:20 **基調講演** » 一般社団法人 医療介護福祉政策研究フォーラム 理事長 中村秀一
- 11:20-12:00 **講演** » 公益財団法人 テクノエイド協会 理事長 大橋 謙策
- 12:00-13:00 **昼食休憩**

第2部

- 13:00-13:20 「厚生労働科学研究委託費(障害者対策総合研究開発事業)研究報告
—支援機器イノベーション創出のための情報基盤構築に関する研究—」
» 国立障害者リハビリテーションセンター 研究所長 加藤誠志
- 13:20-14:35 <支援機器の利活用の現状と情報基盤構築への期待>(I 演題15分)
» 厚生労働省 社会・援護局 障害保健福祉部 企画課 自立支援振興室 福祉用具専門官 加藤晴喜
» 公益社団法人 日本リハビリテーション医学会 理事 浅見豊子
» 植草学園大学保健医療学部理学療法学科講師 日本支援工学理学療法学会運営幹事 松田雅弘
» 社会福祉法人 横浜市リハビリテーション事業団 地域リハビリテーション部 研究開発課 作業療法士 桑田哲人
» 一般社団法人 日本義肢装具士協会 常任理事 大塚博
- 14:35-14:50 **休憩**
- 14:50-16:05 <支援機器の開発促進の現状と情報基盤構築への期待>(II 演題15分)
» 特定非営利活動法人DPI(障害者インターナショナル)日本会議 バリアフリー担当顧問 今西正義
» 日本福祉用具・生活支援用具協会(JASPA)専務理事 清水社一
» 独立行政法人 新エネルギー・産業技術総合開発機構(NEDO) 統括主幹 村越正毅
» 株式会社 今仙技術研究所 取締役 伊藤智昭
» 兵庫県立リハビリテーション中央病院 ロボットリハビリテーションセンター長 陳隆明
- 16:05-16:20 **休憩**

第3部

- 16:20-17:20 **パネルディスカッション** 支援機器の利活用と新たな開発を促進する情報基盤構築
登壇者
» 横浜市総合リハビリテーションセンター 顧問 伊藤利之
» 特定非営利活動法人DPI(障害者インターナショナル)日本会議 バリアフリー担当顧問 今西正義
» 植草学園大学保健医療学部理学療法学科講師 日本支援工学理学療法学会運営幹事 松田雅弘
» 社会福祉法人 横浜市リハビリテーション事業団 地域リハビリテーション部 研究開発課 作業療法士 桑田哲人
» 一般社団法人 日本義肢装具士協会 常任理事 大塚博
» 株式会社 今仙技術研究所 取締役 伊藤智昭
» 兵庫県立リハビリテーション中央病院 ロボットリハビリテーションセンター長 陳隆明
- 17:20-17:30 **閉会**

事前登録

ご参加される方は以下のサイトから事前登録をお願い致します。

<http://www.rehab.go.jp/ri/kaihatsu/innovation2014/index.html>

または、以下の情報をE-mailまたはFaxにてお送り下さい。

※情報保障として、パソコン要約筆記・手話通訳・磁気ループをご用意致します。

ふりがな お名前	お立場 <input type="checkbox"/> 障害当事者 <input type="checkbox"/> 家族 <input type="checkbox"/> 医療専門職 <input type="checkbox"/> 福祉・介護専門職 (複数回答可) <input type="checkbox"/> 研究者 <input type="checkbox"/> 開発者 <input type="checkbox"/> 行政 <input type="checkbox"/> 一般 <input type="checkbox"/> その他()
ご所属	車いすのご利用 <input type="checkbox"/> あり <input type="checkbox"/> なし ※会場設営の参考にさせていただきます。
E-mail(PC)	ご同伴者 <input type="checkbox"/> あり <input type="checkbox"/> なし

支援機器利活用拡大 シンポジウム

—情報基盤構築で進めるイノベーション創出—

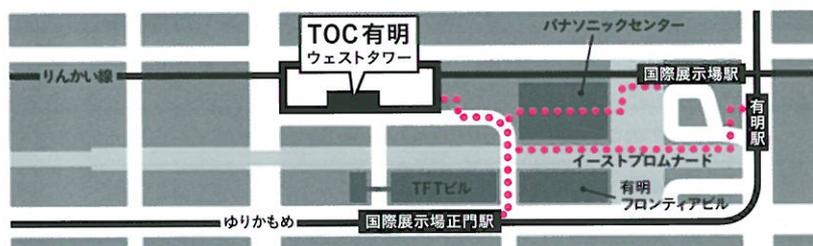
2015.3.7.Sat 10:00-17:30

TOC有明コンベンションホール WEST HALL(4F W-5 / W-4)

平成26年に日本が批准した国連障害者権利条約では、その第四条 一般的義務 第一項の中に、支援機器の開発と利活用の促進が謳われている。支援機器は、障がいのある人々の基本的な権利の享有に、欠かせない存在である。しかし、その開発から利活用に至るプロセスには関与者が多く、また一般製品とは異なる課題が山積しているために、支援機器の実用的な利活用までスムーズに進められない現状がある。

その解決策として、利用者、開発・製造者、供給者、専門職、行政が、それぞれ有する問題意識や知見、情報などを共有し、協働して取り組むこと、すなわち支援機器イノベーションの創出が重要である。国立障害者リハビリテーションセンターでは、それを実現するために、厚生労働科学研究費「支援機器イノベーション創出のための情報基盤構築に関する研究(平成26～28年度)」を実施し、基礎情報、人材育成、当事者からの情報創発に資する基盤構築に取り組んでいる。本シンポジウムでは、これまでの研究成果を報告するとともに、すでに支援機器の利活用と開発の促進に取り組んでいる関連分野からの現状の報告を頂き、情報共有を図るとともに、日本全体として取り組むべき共通の課題を認識する。さらに、その解決における、情報基盤の役割や方向性について議論する。

主催：国立障害者リハビリテーションセンター



TOC有明コンベンションホール
WEST HALL(4F W-5 / W-4)

東京都江東区有明3丁目5番7号

りんかい線国際展示場駅から徒歩3分

ゆりかもめ国際展示場正門駅・有明駅から徒歩4分